

様々な現場のニーズを形にした オリジナル製品を開発

～ファブレスメーカーの強みを活かしたビジネス展開～

株式会社 トゥーワン

セキュリティー関連分野を中心にファブレスメーカーとして事業を展開する株式会社 トゥーワン。様々な現場の声に耳を傾けながらオリジナル製品を開発し、最近では医療関連分野にも参入を果たした同社の概要、製品開発への取り組みなどについて、代表取締役 堀尾 順一 氏にお話を伺った。



代表取締役
堀尾 順一 氏

御社を設立した経緯や事業概要などについてお聞かせください

堀尾：当社は1984年4月に設立し、社名は「21世紀を目指して活躍していく企業になろう!」という想いからつけています。私は以前、商社に勤めていたのですが、「将来は独立したい」という目標があり、「独立するなら30歳まで」という自分なりの考えで、ちょうど30歳の時に会社を退職しています。

当社を設立した時は、基本商社的なビジネスを考えていましたが、何を取り扱うかに関しては特に決めておらず、色々リサーチを行っていました。そのような中、大手製造メーカーが開発した「力率改善装置」という省エネ関連機器の記事を新聞で読み、この装置を取り扱いたいと思いました。

ただ、まだ何も実績のない設立したばかりの会社に、大手製造メーカーとの取り引きができるかといえばそれは無理な話で、そのため以前勤めていた商社に協力していただき、その商社経由で取り扱えるようになりました。それがきっかけとなり、ホームセンターなどの商業施設や工場を中心に省エネ関連機器の販売でビジネスをスタートさせ、現在もその商社とは取り引きが続いています。

そして、中部地方を地盤に展開されているホームセンターチェーンに、この「力率改善装置」を数多く

販売していたのですが、のちに電気の料金体系が変更となり、「力率改善装置」の販売が困難な状況になりました。せっかく取り引きができたのに、どうしたものかと思案していたところ、ホームセンターの担当者から「店舗で使用するセキュリティー関連製品をつくれませんか」というお話をいただきました。これが当社の転機となり、省エネ関連機器からセキュリティー関連機器へと主力が移っています。

その後、セキュリティー関連機器のビジネスを展開する中で、やはり自社のオリジナル製品を開発したいと思うようになり、それは我々が「こんな製品があればいいな」と開発するのではなく、「現場の声を形にしていきたい」と考えました。ただ、自社で工場をもたないファブレスメーカーを目指し、当社は開発のアイデアと開発費を提供して、お客様のニーズにマッチした技術をもつ会社に設計／開発を依頼し、当社のブランドで販売するビジネススタイルを進めています。

そして、多い時には20社ほどの協力会社に設計／開発を依頼し、今まで世に出ていないようなオリジナル製品を色々販売しています。最近では、医療現場からの声にも対応できるような体制を整え、新たに医療関連の事業もスタートしています。

それから、セキュリティー関連や医療関連だけでなく幅広い市場に視野を広げており、また商社立

場のビジネスも継続しながら事業を展開しています。

御社のオリジナル製品についてお聞かせください

堀尾：当社が、最初に自社ブランドとして提供したのは、工場内や事務所などで単独作業者の緊急事態を知らせる携帯型の無線機でした。この製品は、ボタンを押して他の人に異常を知られる仕組みでしたが、急病などで意識を失うケースではボタンを押せないで改良を行い、のちに人の転倒を角度だけで感知する倒れセンサを搭載したモデルを開発しています。

最初に開発したボタンを押すタイプのモデルは、あまり売れませんでした。倒れセンサを搭載したモデルは、当社の経営を支えるヒット製品になりました。その後、他社も同様な製品を市場に投入するようになり、当社としても諸事情から現在はそれほど力を入れていない状況です。

ただ、この製品で培った無線技術は、次に開発したワイヤレス自動音声呼び出しシステム「チョットきてコール」に活かされています(写真1)。この製品は、ホームセンターやドラッグストアなどでお客様が店員さんを素早く呼び出すためのシステムになりま



写真1 ワイヤレス自動音声呼び出しシステム「チョットきてコール」



写真2 大量盗難防止システム「減るとコール」



写真3 防犯電子ミラー「ミテマス」

す。既存の放送設備を利用し、店内や構内での音声呼び出しや定時放送などに活用できます。また、防犯装置との連動も可能で、無線式のため簡単な工事ですぐに利用できます。

主な特徴としては、①特定小電力無線を使用するため、配線/免許不要、②約100mまで通信可能(環境により異なる)、③送信機は最大99台まで接続可能、④マイクミキサー標準装備、⑤電池残量のお知らせ(受信機/送信機)、⑥タイマー設定により最大5種類の定期放送が可能、⑦SDカードを差し替えるだけでメッセージ変更が可能、⑧受信機は8chの優先接続入力が可能、などが挙げられます。

この製品も、国内全域の様々な店舗に導入いただいており、当社のヒット製品になっています。

それから、大量万引きを防止する製品として、重量検知型の大量盗難防止システム『減るとコール』を開発しています(写真2)。この製品は、センサで商品の重量の変化を検知し、大量盗難を未然に防ぐ防犯システムで、店内放送などの連動により、効果的な防犯対策が可能です。また、在庫管理にも活用できるので、補充タイミングを逃しません。

主な特徴としては、①音声呼び出しシステム『チョットきてコール』との連動が可能、②売り場の変化をシグナル点灯/店内放送で確認、警備巡回放送/バックヤード呼び出しが可能、③商品の重量や反応検知時間/重量、商品補充重量など、リモコンで簡単設定、④専用の棚板とセンサのみの設置で大量の商品監視が可能、などが挙げられます。

同じく万引き防止の製品として、新たに防犯電子ミラー『ミテマス』も開発しています。この製品は、タブレット内蔵カメラでのリアルタイム撮影やリアルタイム出力が可能な防犯システムになります(写真3)。監視映像をその場で映すことで犯罪抑止につながられ、動体検知機能でテロップ表示が可能です。

主な特徴としては、①動体検知機能で人の動きに反応し、リアルタイム撮影/出力が可能、②長寿命

の産業用タブレットを採用し、体内蔵SDカードに自動保存/再生、③スケジュール機能により無駄なく録画可能、④録画ファイルを転送することで長時間録画が可能(オプション)、などが挙げられます。

さらに、工場や店舗での定期放送や従業員の呼び出し機能を装備した放送システム『お手軽放送室』といった製品も開発しています(写真4)。この製品は、標準装備されたBGMを活用することで、月々のランニングコストをカットし、従業員呼び出しシステムとの併用により、店内業務の効率化を実現します。

主な特徴としては、①音声カード内のBGM/CMデータを自動再生、②受信範囲内であればリモコン操作が可能、③設置型送信機は31種類を用意し、売り場の状況に適した設置が可能(オプション)、などが挙げられます。

これらオリジナル製品のネーミングは、すべて社内で選定をおこなっており、ユーモワのある分かりやすいものになっています。

医療関連のオリジナル製品やそれ以外で展開されている製品についてもお聞かせください

堀尾：医療関連のオリジナル製品については、今から3年半ほど前にある医療機関から、「薬の誤配を防ぐようなものはないか」といった依頼がきっかけになっています。当初は、本当に需要があるのか半信半疑でしたが、偶々見ていた新聞に大学病院で発生した誤配薬の記事が載っており、市場があるのではと判断して開発をスタートさせました。

ただ、思っていた以上に苦労し、ようやく形になったのは昨年4月でした。そこから、現場で試験的に使っていただき、色々と改善案を出してもらいながら改良を行っていました。

そして、今年の2月により早く開発できたのが、誤配薬防止カート『MEPS21』になります(写真5)。

この製品は、手のひら静脈による生体認証で本人確認を行います。医療情報システムと連携し、投薬記録が残せるだけでなく、保管庫としても利用することが可能です。ラインアップとしては、20人用と30人用を用意しています。

それから、セキュリティ関連や医療関連以外で提供している製品も色々ありますが、今回はコンクリート補修材『瞬間コンクリ 21』を紹介します(写真6)。この製品は、強度がコンクリートの約4倍で、最速15分で補強できます。-20℃の環境下でも使用でき、下塗り処理も不要です。化学反応で硬化させるため、気温や乾燥状態を気にすることなく補修が可能になります。開発元のカナダの会社とライセンス契約を結んだ国内の会社が製造し、当社ではその販売を行っています。

非常にリピート率の高いヒット製品になっています。

今後の展開についてお聞かせください

堀尾：最近では、新たな取り組みとして小型ハイビジョンカメラを使った自動外観検査システム『Ein's』の販売を始めましたが(写真7)、今後は製品販売だけでなく、検査の仕方など当社が今まで培ってきたノウハウをセットにし、色々提案していければと考えています。

製品自体もジェットエンジン内の検査に使用されているハイビジョンカメラの技術を応用し、ハイスピードで高精度を実現するとともに、価格も低コストを実現しているため、手軽に自動外観検査システムを構築できるというメリットがあり、それに当社のもつノウハウをセットにして新たな市場開拓を目指していきます。

それから、今まで自社開発してきたオリジナル製品を組み合わせることで、新たな提案を色々行っていきたいと考えています。例えば、今まで店舗中心に提供していた『チョットきてコール』を、モニタを加えて工場など生産現場に設置することで、音声と視覚による生産効率の向上や安全面でも寄与できると思います。

あとは、『MEPS21』の開発により、医療分野への足掛かりができたので、これを機にさらなる現場の声に応えながらバージョンアップを積み重ねていき、介護分野にも展開していく予定です。またこの製品は、機能面から製造業やその他の分野にも展開が可能だと思うので、色々準備を進めていきます。

そして、これからもファブレスメーカーとしての強みを最大限に活かしながら、ビジネスを展開していきたいと考えています。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

プロフィール

株式会社 トゥーワン

所在地：名古屋市中区

URL：http://www.twoone.co.jp

事業内容：病院・介護製品の開発/製造/販売、防犯・店舗機器の開発/製造/販売、環境関連設備等の販売。



写真4 放送システム「お手軽放送室」



写真6 コンクリート補修材「瞬間コンクリ 21」



写真5 誤配薬防止カート「MEPS21」



写真7 自動外観検査システム「Ein's」